キャリア・アドバイザー通信「新たな社会人としてのキャリア」

本号のキャリア・アドバイザー通信は、今春卒業した5名の座談会の一部をご紹介させていただきます。テーマは、「久留米大学での4年間」。一人ひとりに久留米での学生生活の思い出を語ってもらいました。それぞれに「久留米大学物語」があり、「新たな社会人としてのキャリア」がなんとなく見えました。彼らに限らず本学卒業生全員が、久留米・九州・全国で新たな一歩を歩き始めました。ぜひ社会人の先輩として、またOB・OGとして温かく見守っていただけますようお願いいたします。

【座談会メンバー】
司会　酒井　佳世
（特命講師キャリア・アドバイザー）
●浅野　絢
中外製薬入社　経済学部経済学科
（福岡県立春日高校卒）
●内野　綾香
KDDI入社　経済学部経済学科
（九州女子高校　現：若葉高校卒）
●白水　那智
厚生労働省（本省）入庁　法学部
法律学科（第一薬科大学付属高校卒）
●野引　雄太
旭化成入社　商学部商学科（愛媛県立宇和島東高校卒）
●久松　ことみ
JTBワールドバケーションズ入社
文学部国際文化学科（鹿児島県立錦江湾高校卒）

【座談会】

浅野 学生時代頑張ったことは？

白水 勉強ですね。学内の課外講座を2年生の時に受講して、3年生から課外講座を開講していた専門学校（福岡市内）に通っていました。また、受講料を捻出するためにアルバイトも頑張っていました。

野引 大学1年の時から公務員になりたいって思っていたのですか？

白水 実は1年浪人して入学しているんですよ。浪人中、将来について迷っていた時、祖父が国家公務員だったこともあり、公務員について母親からいろいろ話を聞いて、公務員っていいなと思い、そこから法学部を目指そうかなと決めました。また、公務員になるために1年生の時から計画を立てていましたね。

内野 すごく有意義ですね。

久松 そのころから自分の人生設計ができていて、それに向かって努力していったのですね。

白水 まぁ毎日コツコツと。

みんな すごい

久松 専門学校に行くお金は全額自分で貯めたのですか？

白水 そうですね。一銭も親に払ってもらってないですね。万が一、落ちた時に親に顔向けできないっていうか、出してもらって落ちたら申し訳ないと思って。

久松 すごいとしか言えないですね。

内野 なにもしない大学生をみて、「なんだ？」とか思ったりしなかったですか？

白水 最初入学したときのレベルは同じくらいじゃないですか。そこから差が出ると思いますよ。何で差ができるかって言ったら、入学してから卒業するまでの4年間の日々の行いをどれだけやるかだと思います。

酒井 いい話だね。

白水 みんなわかっていると思いますが、計画性をもって多く動くことが大切だと思います。

みんな すごい

浅野 大学時代頑張ったこと…。私センター試験利用入試で入学したのですが、高校の卒業式の時「なんで？」ってことを周りから言われて、悔し泣きをしました。でも自分って努力したのかなって考えたとき、全然努力してないと思って、大学ではとりあえず努力しようと思いました。まず、当たり前ですが授業は絶対出て、遅刻も絶対しないで全力で受けて、最悪、評定Aで、ほかはAAを取るつもりで頑張りました。実を結んで特待生に2年連続になれたので、これが頑張ったことかと思います。そのほかにも大学生として勉強、部活にとどまらず、バイトも2つして、研究会にも入って、旅行にも行きました。やってないなと思うのは、ボランティアくらいかな。

白水 やっぱり、特待生とかは取っておいた方がいいですよね。学費とか免除されるでしょ。

浅野 はい、授業料は免除ですね。

白水 特待生や優等生になれば、図書カードを頂けるので、僕はそれで参考書を買っていました。なんでもやるなら、本気でやることが大切ということですよね。

浅野 計画性がないのは腹立たしいので。

白水 大学に入るなら何か目的を持っていた方が良いと思います。大学って何か与えられる場所じゃないし、自分でこうなりたい、ああなりたいって思って、自分で計画を立て、それに向かって地道に行くのが大学の醍醐味だと思います。

浅野 せっかくやるのだったら、考えてやった方がいいですよ。

白水 時間がもったいないですしね。

浅野 人生1回しかないので、時間の大切さについて考えてみるといいですね。

●後列左から 酒井、野引、白水　●前列左から 久松、内野、浅野

内野 熱いですね。

久松 私は、もともと大学に来た理由も小中高の幼なじみがいて…一緒に行く？みたいな感じでした。3年生のとき、何か目標を決めようと思ったけれど、日本で目標を決めてもすぐに切り替えできないと思ったから、一度外国に行って自分をリセットしようと考え、ワーキングホリデーに行きました。そこでさまざまな考えを持っている人が世界中にいるということがわかりました。それを踏まえて、日本に帰って違う人生をやり直そうと思ったので、切り替えができて就活や資格などの勉強を頑張れました。

内野 私が大学時代に最も力を入れたことはアルバイト。その中で長く続けているものはノルマが課されているものでした。具体的には、携帯電話の販売イベントでは、土・日で50台、今のコールセンターでは、1時間に3件の契約を電話でとるというものに力を注いできました。なんで、私がこんなノルマを課されることを続けられるのかというと、それだけ自分に期待されている、私にできると思って取り組んでいるからだと思います。

野引 大変なのにそれでもやりたい？

内野 うん。だってノルマってものは社会に出て絶対、目標という形に変えて課されているのだから、それを社会に出る前に知りたいと思って。

私は刺激を外に求めて、たまたまそれがノルマだった。やっぱり、自分が頑張った分、周りもついてきてくれるし、実際に数字が契約に出るし、その数字を追い求める方法を見つけだすことにすごいやりがいを感じました。

酒井 野引君があり得ないって顔している。

野引 自らする？

白水 考え方が上手いですよね。逆に僕は、ノルマが嫌だったから公務員になったみたいなところがあります。なんというか、課されることを期待と捉えれば、良かったけれど達成できなかったことを常に考えて…

内野 私は今、すごく満足している。今の就職先が自分の納得いかないものだったら、久留米大に来たことを後悔するけれど。

酒井 結果オーライ？

内野 私も一生懸命頑張ったし、一生懸命やってノルマが達成できなくても怒られたことは一度もありません。

白水 なんで一生懸命やらないかってことを考えると、失敗したときを考えているからやらないんですよね。

みんな さぁ、野引君いきますか。

野引 学生時代頑張ったことは資格取得ですね。自分は高校が商業科でした。周りの人は推薦などで、国公立（結構行ったりして、その人たちに負けたくないなと思いました。高校から簿記を学んできたので、その簿記を追究したいなって。将来、銀行員になりたくて、日商簿記1級とFP（ファイナンシャル・プランナー）の資格を取ろうと思いました。現実には3回ほど落ちて、それでもやっぱり取りたいと思って、諦めずに頑張って1級合格（合格率10％前後）。さらにFPも同時進行で2級まで取れて、これらの資格を生かした仕事がしたいと思って頑張ってきました。

酒井 学ぶ癖がついているっていうのは、人生あとで楽だよね。学ぶ習慣になっているというのは、人生しんどいときやれるってことが頭の中で計算できるし、自信にもなるだろうし。

酒井 それでは後輩にメッセージを。

野引 みんな違うように、何をするかによってみんな違ってくると思うんですよね。しかもどれだけ根気強くやっていくかによって、人生変わってくると思います。大学の4年間で何をするかによって、これからの進路をどのように進むか変わっていくと思うので、なにか一つ自分の得意なものや、やりたいことを見つけていくことが大事なのかなって思いますね。

内野 すごく刺激的な話を聞かせていただいて、共通して言えることはみんな一生懸命。さっき野引君も言ってくれたけど、私も1年生や在学生の人たちに、一生懸命今からできることを見つけて取り組んでほしいなと思いました。

久松 遊びにしろ、勉強にしろ、何かをして何かを得るっていう行動をとることで、私がなぜこういう考えになったのかを考えたら、これがあったからだっていう点と点がつながって一つの線になっている。その点をしっかり考えて見つめ直してほしい。たぶん、後悔している人も多いけど、自分が後悔するほどの人生は送ってないと思う。

酒井 何もしてないことに後悔しているのかなぁ。後悔するほどのこともしてないってことか。

浅野 5人は一生懸命頑張ることを知っている、まわりを知っている、世間を知っている。どのような人がいて、頑張っている人がこの世の中にどれだけ存在するかっていうことがわかっているよね。そして、自分の立ち位置はどこだろうって思って、まだまだだなと思うから一生懸命頑張って、その人たちに少しでも近づく、自分は自分なりの頑張り方で、違う方向でも頑張ろうとしていますね。

白水 1年生に関しては、今、自分が今後どういう手順で進めていくのかを考えるベストな時期だと思います。1年生からいきなり行動を起こすというのも悪くはないけれど、計画性をもってやったほうが成功すると思います。2、3、4年と手順をきちんと考えて行動してほしいと思います。これから久留米大学に入ろうと思う人には、目的を持って入ってきてほしいです。何も目的がないよりはあった方が一歩前に出ていると思うから、目的を持って大学に来てください。

酒井 皆さんありがとうございました。社会でますます活躍することを願っています。